

2-3 安全でおいしい水の安定供給に向けた取組

(1) 高度浄水処理導入の認知度

問 水道局では、通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理を導入していますが、ご存知ですか。

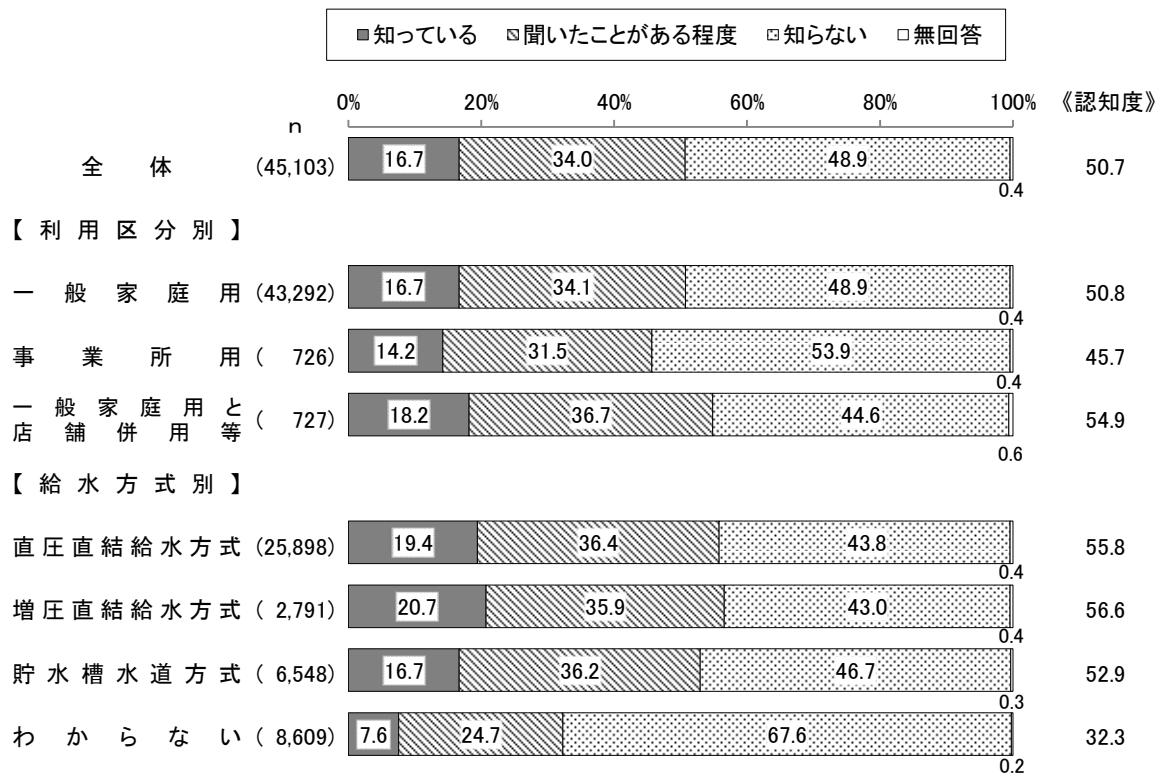
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔A：問11〕

〔調査結果〕

① 高度浄水処理導入の認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表2-3-1〉



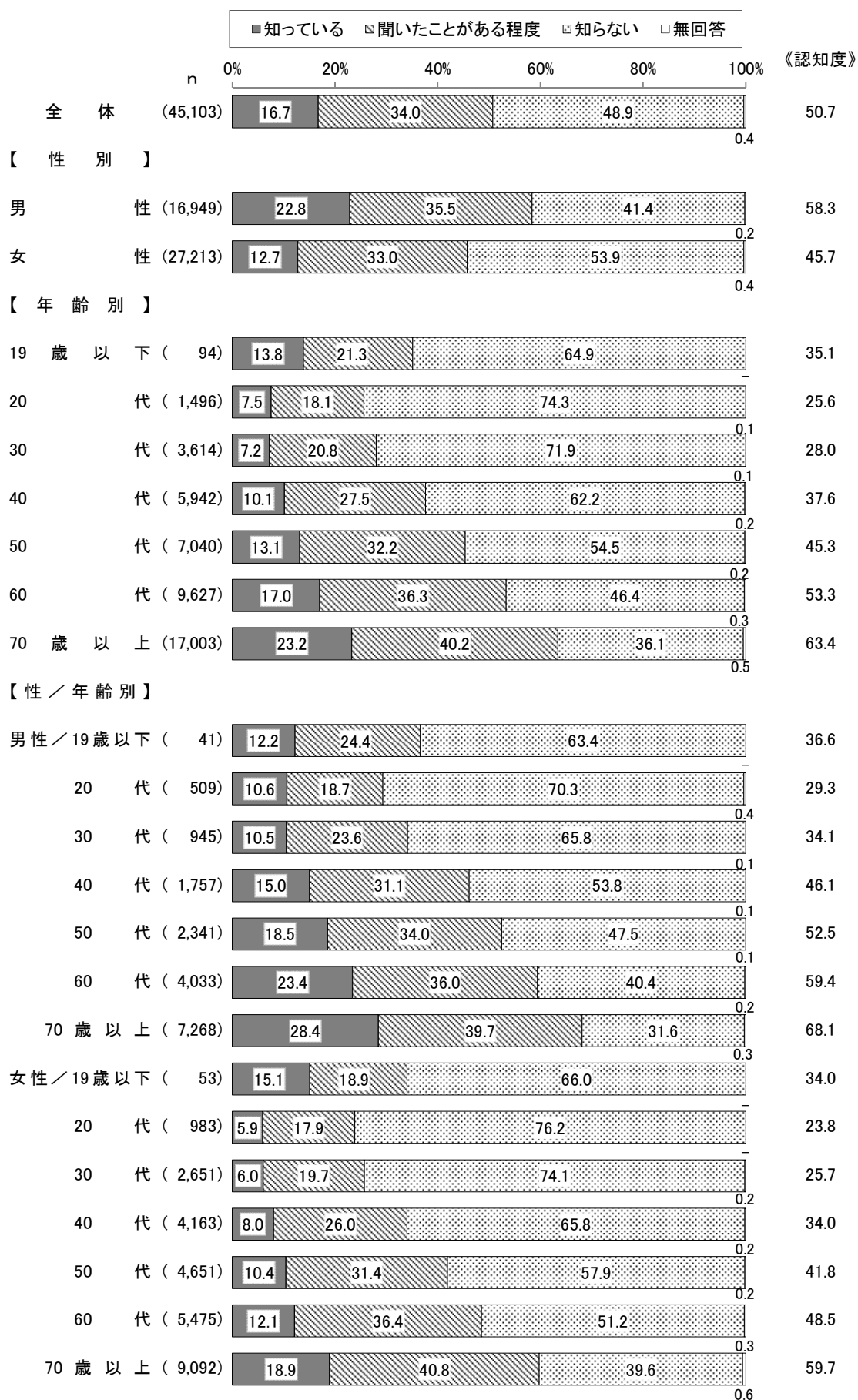
＜特徴＞

○全体でみると、「知らない」が48.9%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が34.0%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(16.7%)を合わせた《認知度》は50.7%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で54.9%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、増圧直結給水方式で56.6%と最も高く、直圧直結給水方式が55.8%で続いている。

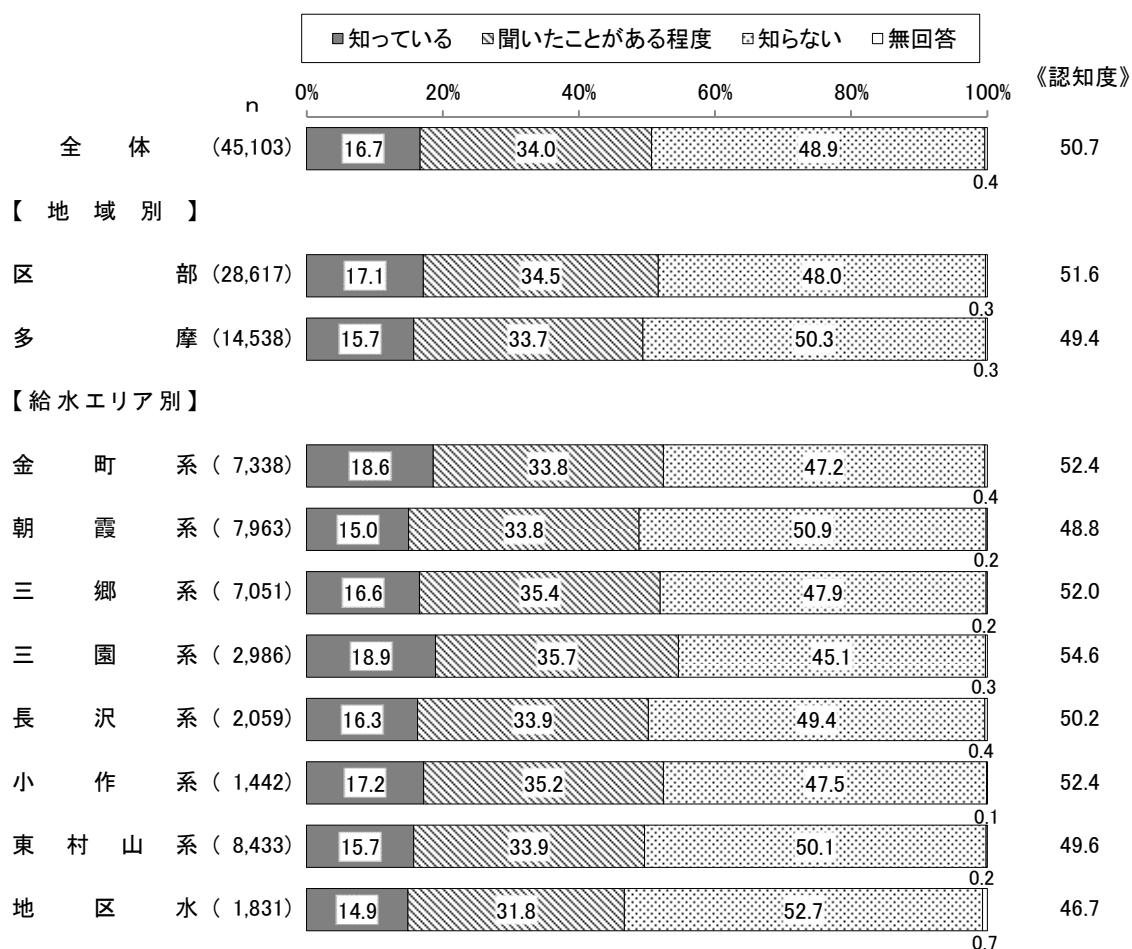
② 高度浄水処理導入の認知度（属性別）〈図表 2－3－2〉



<特徴>

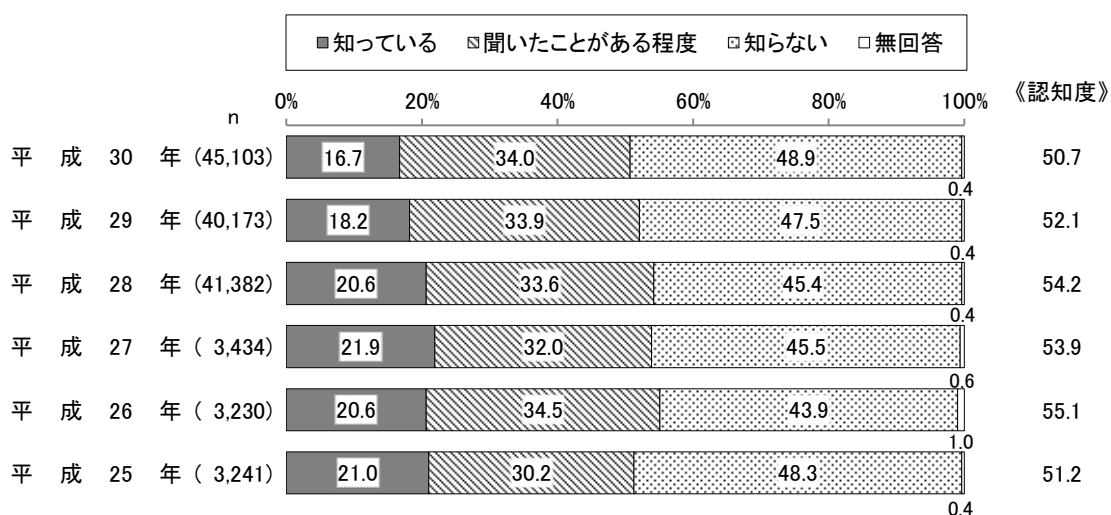
- 性別では、《認知度》は、男性（58.3%）の方が女性（45.7%）より12.6ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（35.1%）から20代（25.6%）、30代（28.0%）にかけて低くなるが、40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（63.4%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに19歳以下から20代、30代にかけて低くなるが、40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなっており、男性の70歳以上（68.1%）で最も高くなっている。

③ 高度浄水処理導入の認知度（地区別、給水エリア別）〈図表2-3-3〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系（54.6%）で最も高く、金町系、小作系（ともに52.4%）と続いている。

④ 高度浄水処理導入の認知度（時系列：全体）〈図表２－３－４〉

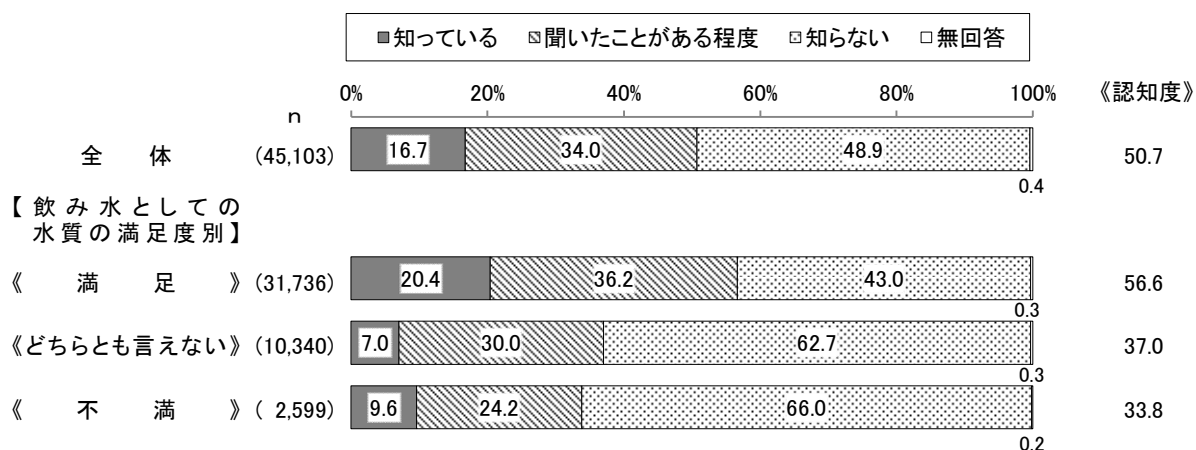


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の《認知度》の傾向は、平成27年度（53.9%）から平成30年度（50.7%）で3.2ポイント減少している。

⑤ 高度浄水処理導入の認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表２－３－５〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（20.4%）の方が、《不満》な人（9.6%）より10.8ポイント高くなっている。さらに「聞いたことがある程度」（36.2%）を合わせた『認知度』は56.6%となり、《不満》な人（33.8%）より22.8ポイント高くなっている。

（２）地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

問 水道局では、地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保に取り組んでいます。ご存じですか。

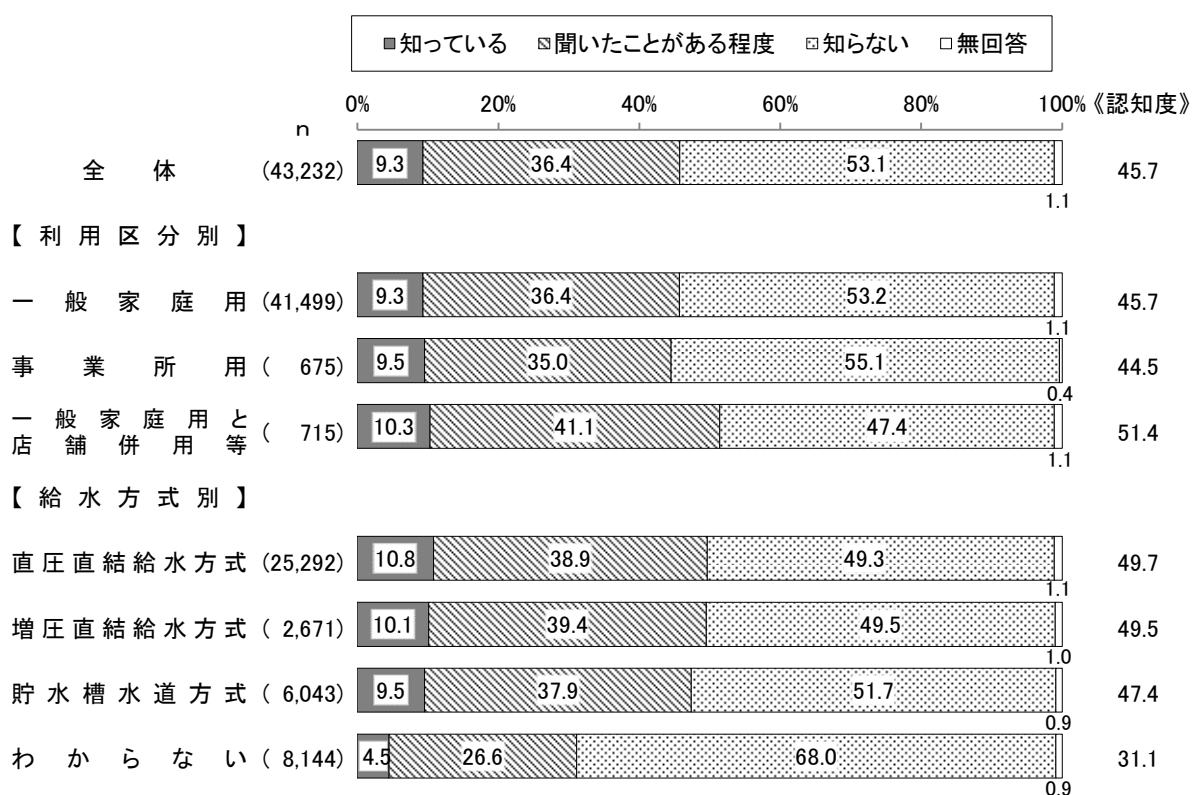
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

〔B：問12〕

〔調査結果〕

① 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

（利用区分別、給水方式別）〈図表２－３－６〉



＜特徴＞

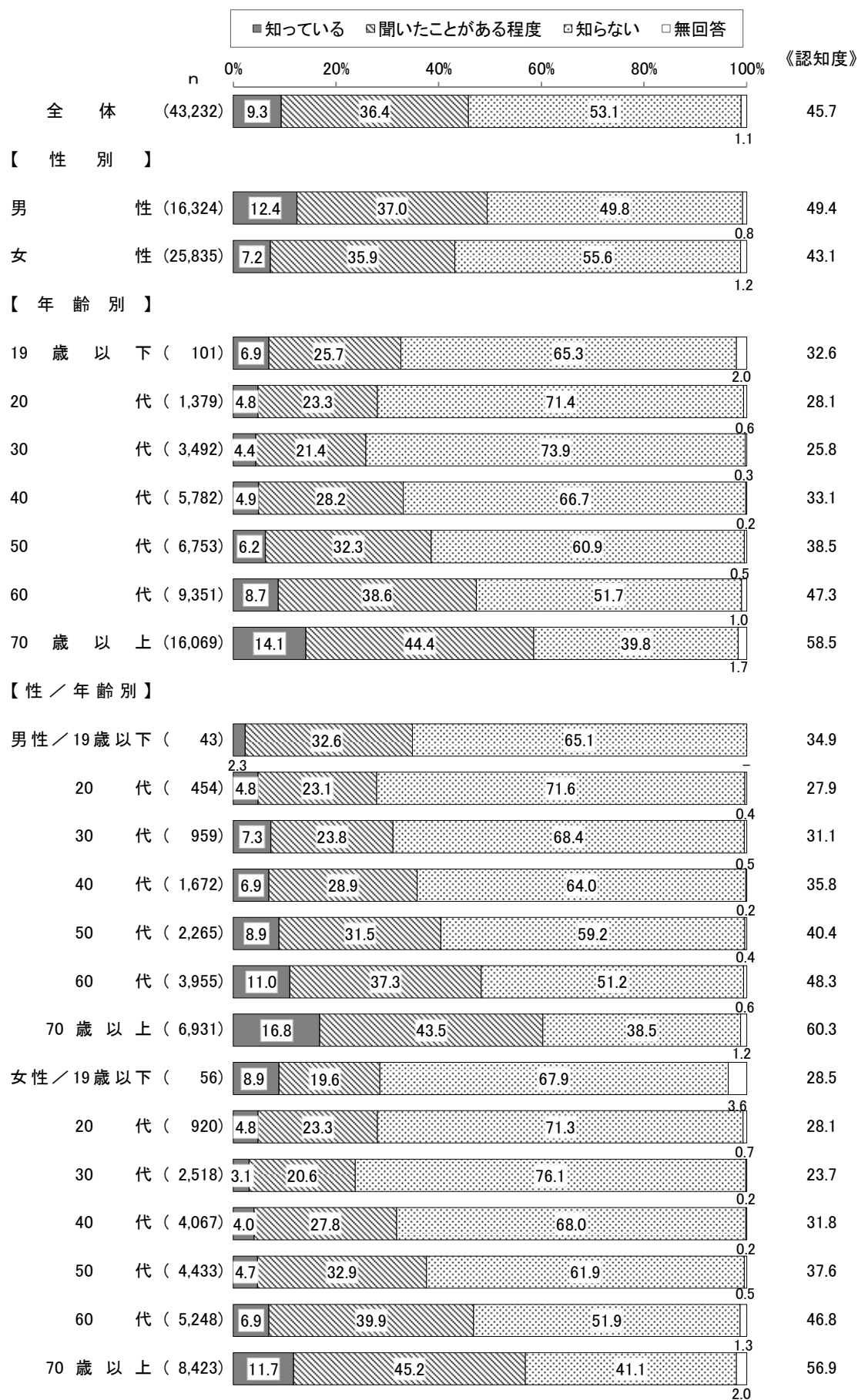
○全体でみると、「知らない」が53.1%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が36.4%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(9.3%)を合わせた《認知度》は45.7%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で51.4%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で49.7%と最も高くなっている。

② 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（属性別）

〈図表２－３－７〉

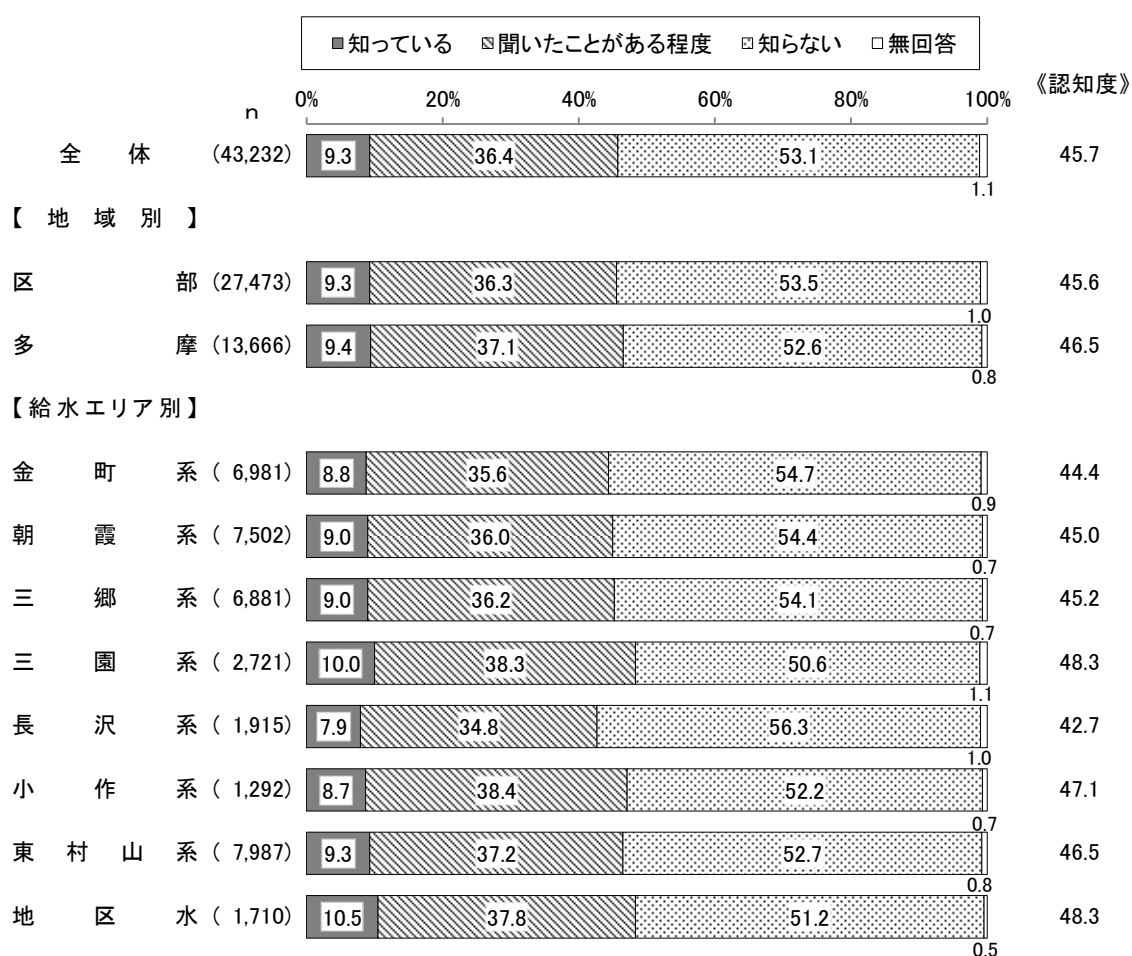


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（49.4%）の方が女性（43.1%）より6.3ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（32.6%）から20代（28.1%）、30代（25.8%）にかけて低くなるが、40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（58.5%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男性は20代（27.9%）、女性は30代（23.7%）で最も低く、それから年齢が上がるにつれ割合は高くなっており、男性の70歳以上（60.3%）で最も高くなっている。

③ 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

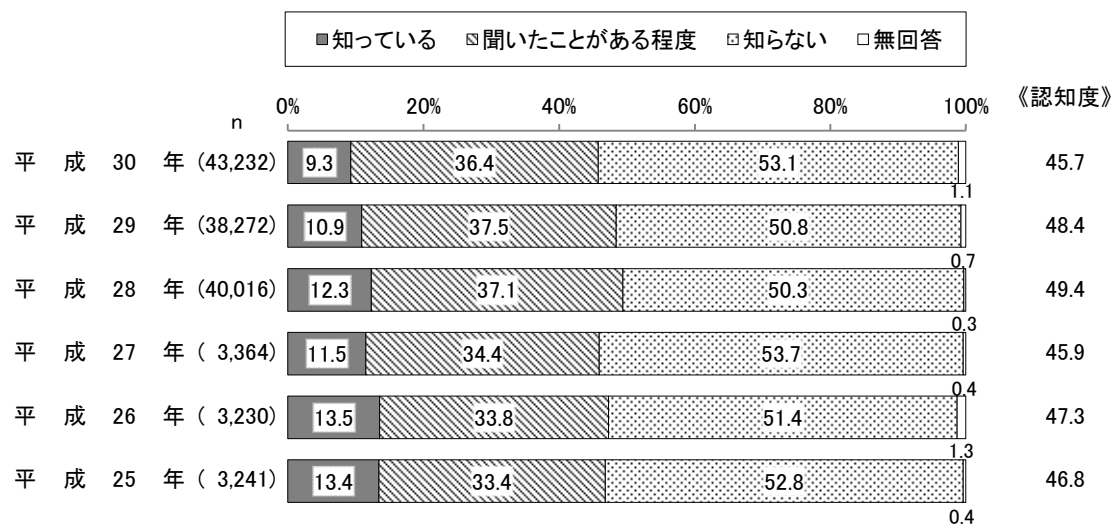
（地区別、給水エリア別）〈図表2-3-8〉



- 地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、三園系と地区水（ともに48.3%）が最も高くなっている。

④ 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（時系列：全体）

〈図表 2－3－9〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向では、《認知度》は平成28年と平成29年に5割近くまで増加したが平成30年は平成27年と同じ4割台半ばに減少している。

(3) 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

問 水道局では、雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理に取り組んでいます、ご存知ですか。

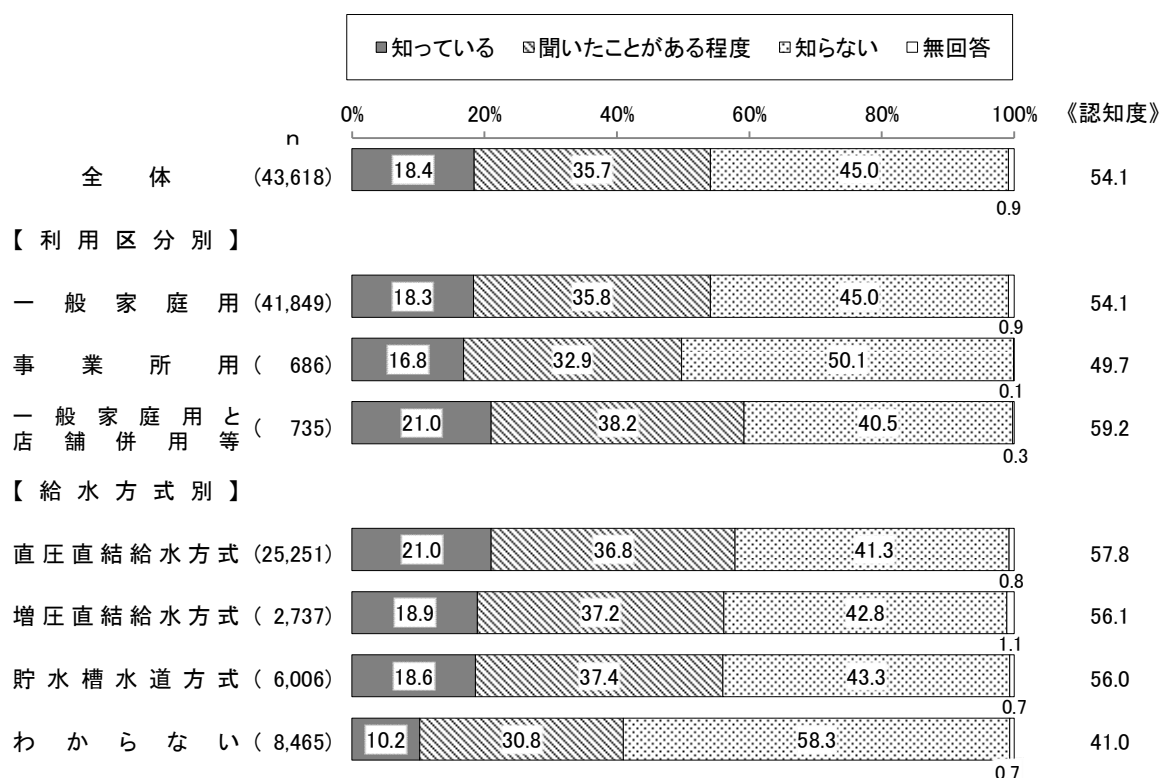
1) 知っている 2) 聞いたことがある程度 3) 知らない

[C : 問 12]

[調査結果]

① 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(給水方式別)〈図表2-3-10〉



<特徴>

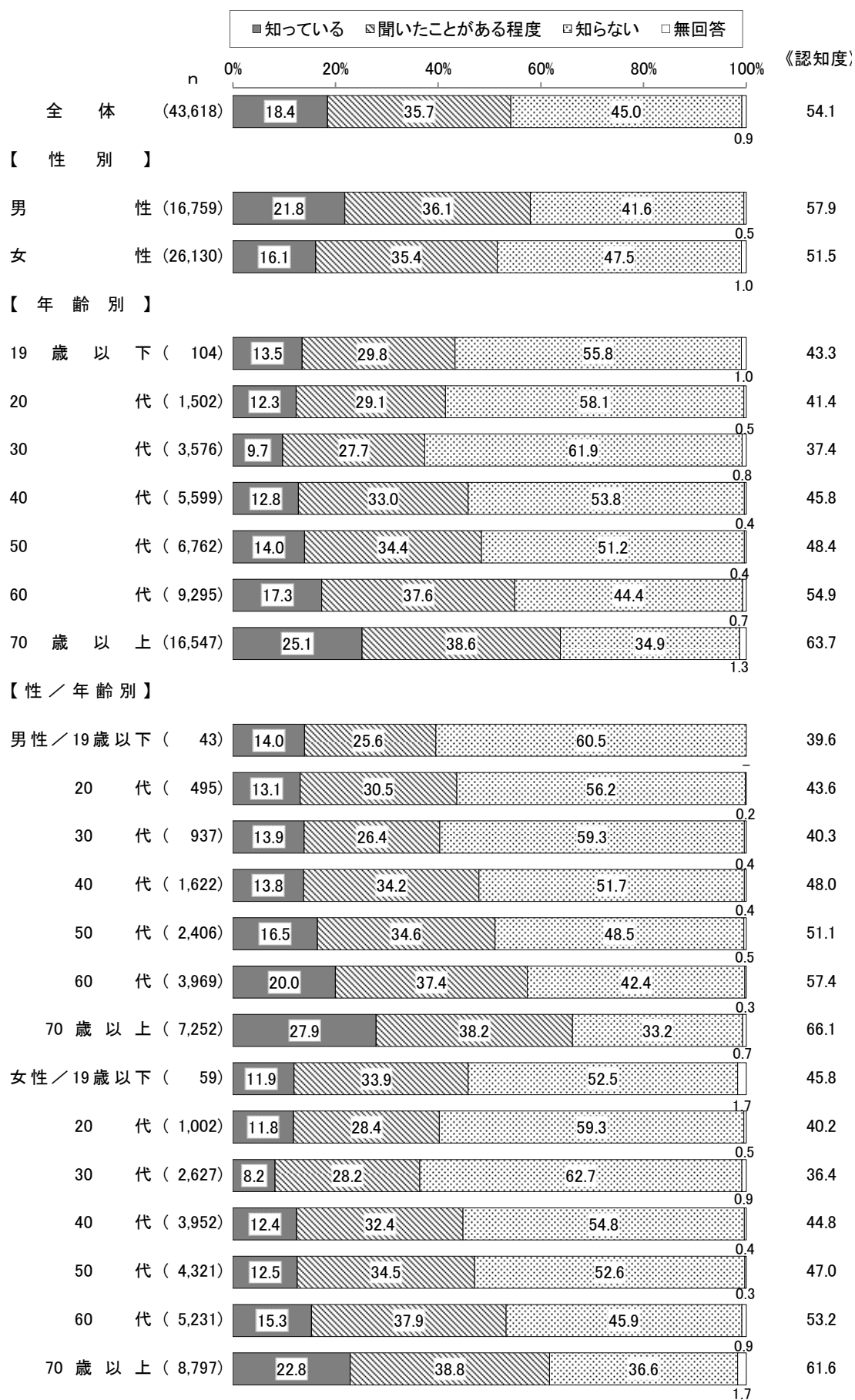
○全体でみると、「知らない」が45.0%で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が35.7%で、「聞いたことがある程度」と「知っている」(18.4%)を合わせた《認知度》は54.1%となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で59.2%と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式が57.8%で最も高くなっている。

② 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(属性別)〈図表2-3-11〉

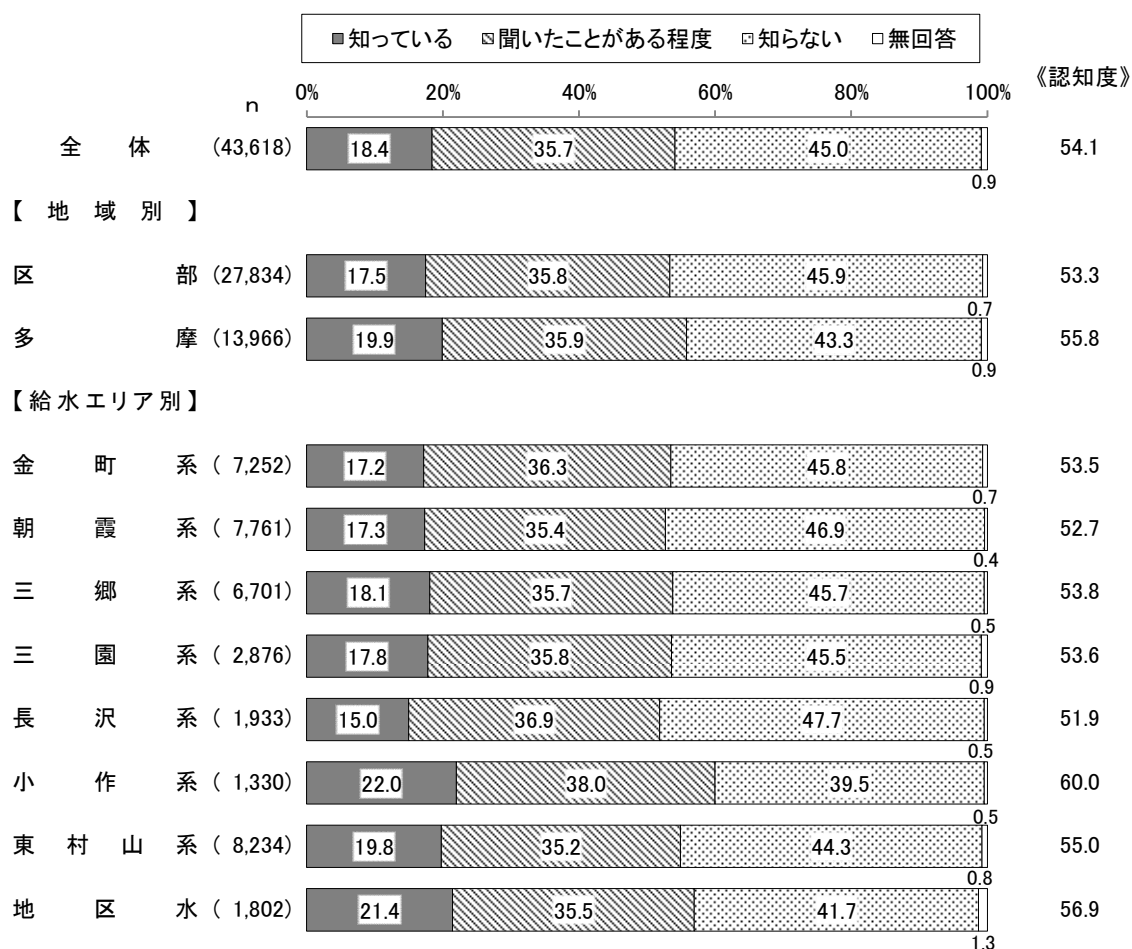


<特徴>

- 性別では、《認知度》は、男性（57.9%）の方が女性（51.5%）より6.4ポイント高くなっている。
- 年齢別では、《認知度》は、19歳以下（43.3%）から20代（41.4%）、30代（37.4%）にかけて低くなるが、40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（63.7%）で最も高くなっている。
- 性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなっており、男性の70歳以上（66.1%）で最も高くなっている。

③ 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

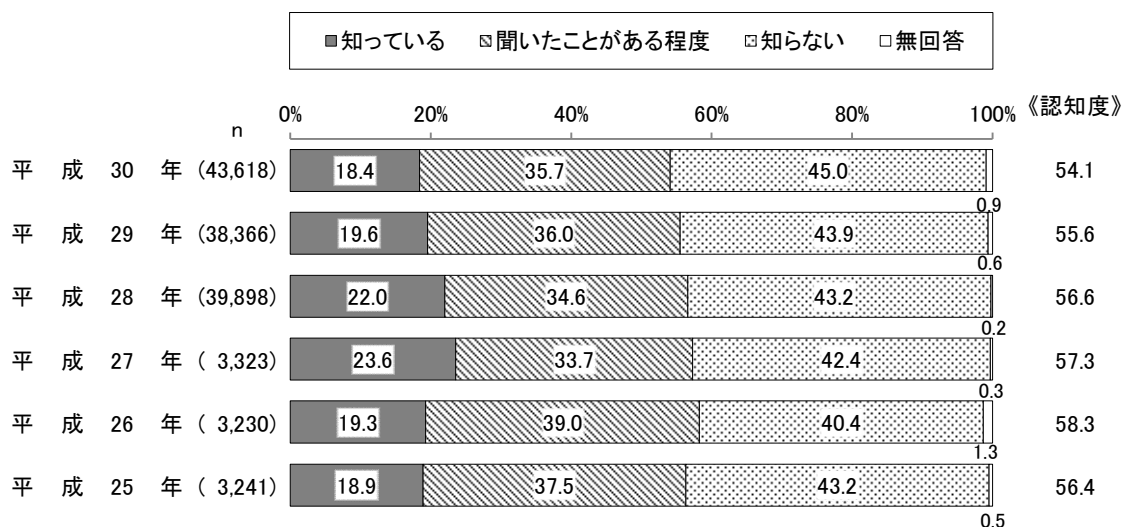
（地区別、給水エリア別）〈図表2-3-12〉



- 地域別では、《認知度》は、特に大きな違いはみられない。
- 給水エリア別では、《認知度》は、小作系（60.0%）で最も高くなっている。

④ 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

(時系列：全体)〈図表2-3-13〉



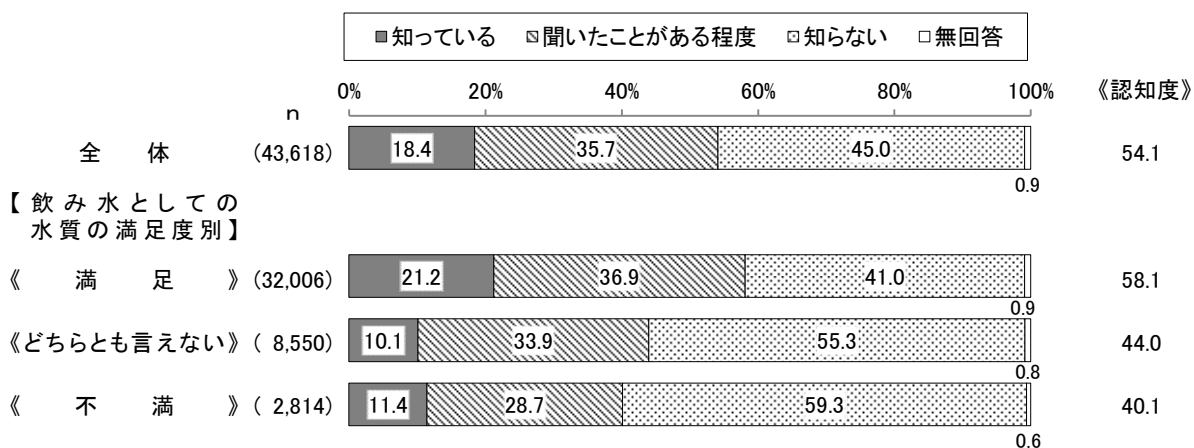
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向では「知っている」が平成27年度（23.6%）から平成30年度（18.4%）で5.2ポイント減少しているが、《認知度》でみると特に大きな違いはみられない。

〔詳細分析〕（分析の軸はC票の設問）

⑤ 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表2-3-14〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（21.2%）の方が、《不満》な人（11.4%）より9.8ポイント高くなっている。さらに「聞いたことがある程度」（36.9%）を合わせた『認知度』は58.1%となり、《不満》な人（40.1%）より18.0ポイント高くなっている。

(4)「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無

問 最近「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことがありますか。

1) 耳にしたことがある

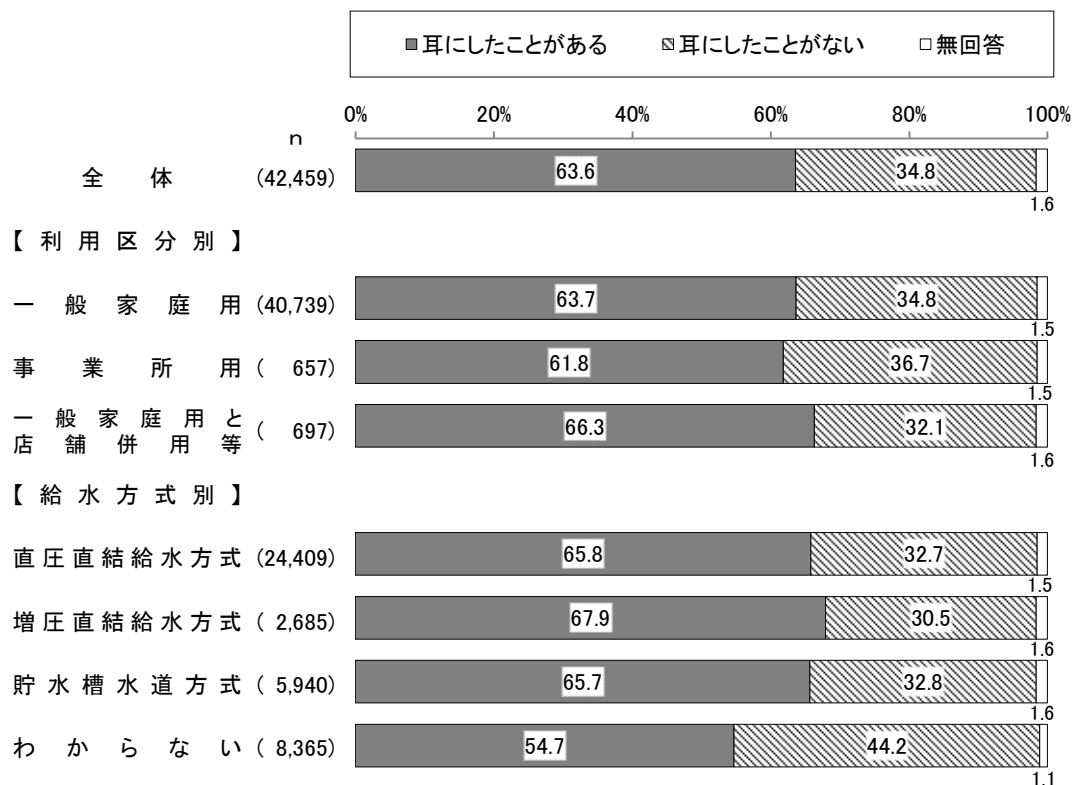
2) 耳にしたことがない

〔D：問11〕

〔調査結果〕

① 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（給水方式別）

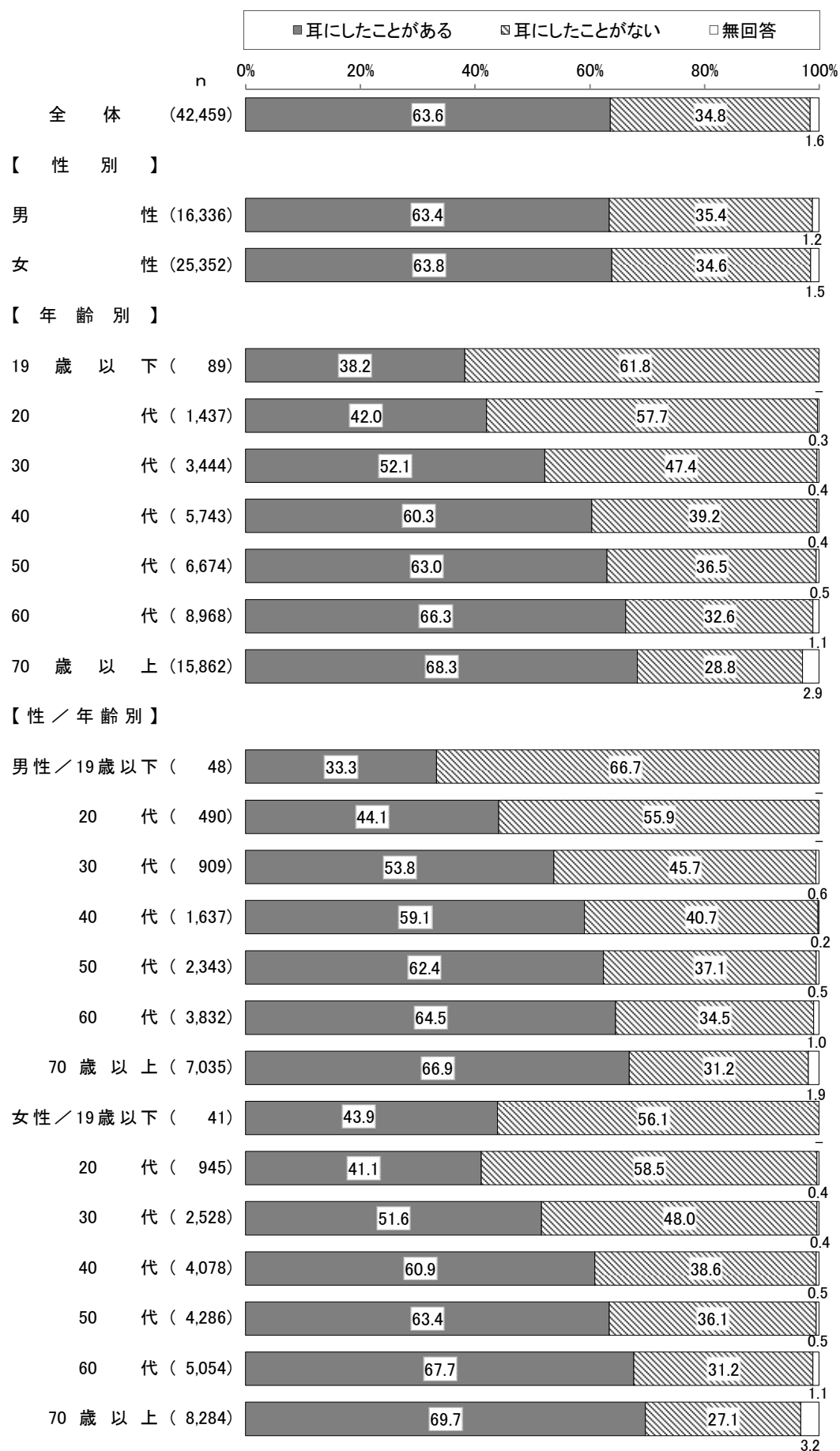
〈図表2-3-15〉



＜特徴＞

- 全体では、「耳にしたことがある」が63.6%で、「耳にしたことがない」(34.8%)より高くなっている。
- 利用区分別では、「耳にしたことがある」は、一般家庭用と店舗併用等で66.3%と最も高くなっている。
- 給水方式別では、「耳にしたことがある」は、増圧直結給水方式で67.9%と最も高くなっている。

② 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（属性別）〈図表 2-3-16〉



<特徴>

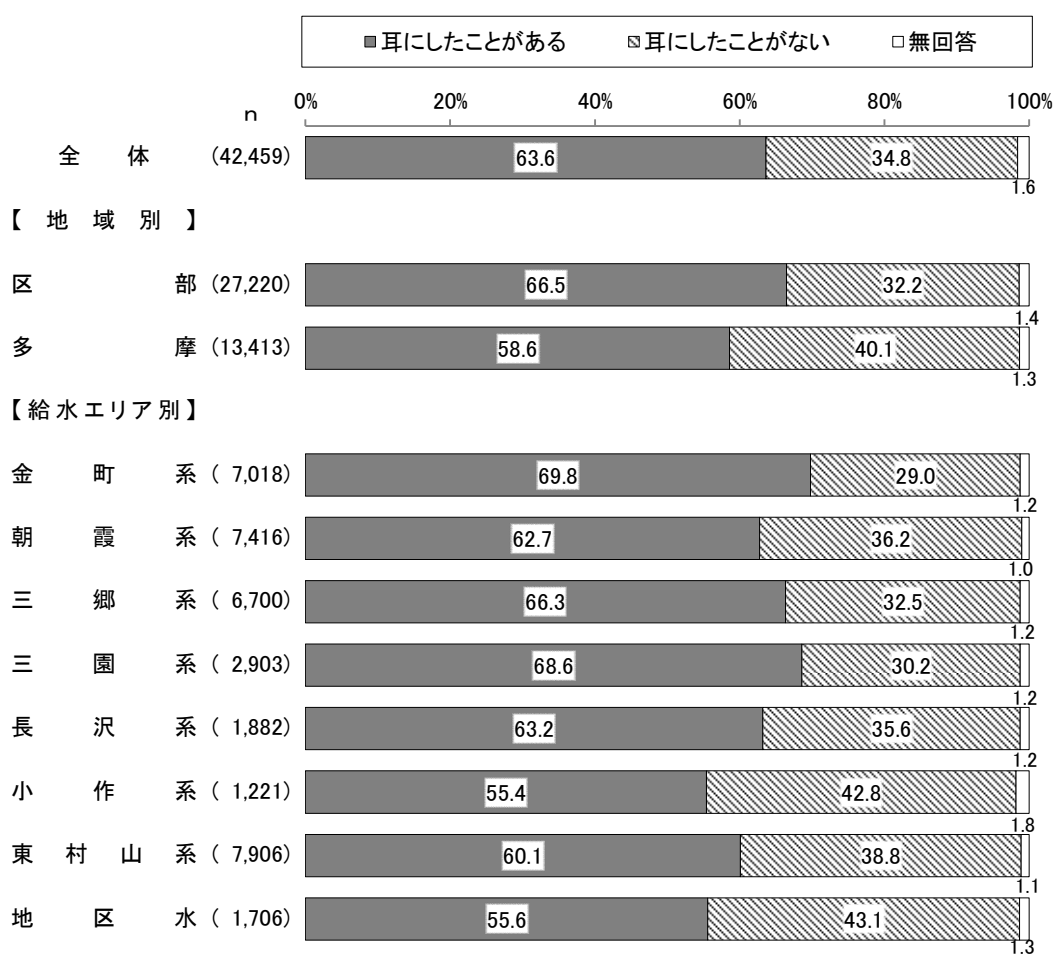
○性別では、特に大きな違いはみられない。

○年齢別では、「耳にしたことがある」は、19歳以下（38.2%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（68.3%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、「耳にしたことがある」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなっており、女性の70歳以上（69.7%）で最も高くなっている。

③ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（地区別、給水エリア別）

〈図表2-3-17〉

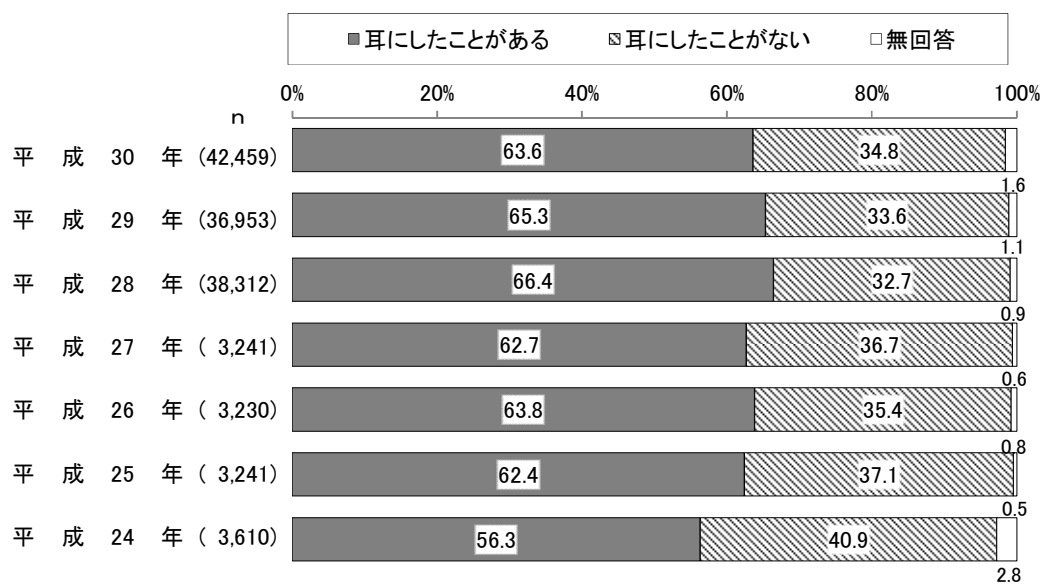


○地域別では、「耳にしたことがある」は、区部（66.5%）の方が多摩（58.6%）より7.9ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「耳にしたことがある」は、金町系（69.8%）で最も高く、次いで三園系（68.6%）となっている。

④ 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（時系列：全体）

〈図表 2－3－18〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から平成30年度までの4年間の傾向は、「耳にしたことがある」は6割強から6割台半ばの間で推移している。